環(わ)の会の

テリングって
どんなもの？

認定NPO　環(わ)の会

http://wa-no-kai.jp

はじめに

この冊子を手に取って下さった方は、どんな方でしょうか？
子どもを迎えて、これから、テリングをどうしよう、と思っている方でしょうか？
子どもを育てているけれど、「真実告知」ができずに悩んでおられる方でしょうか?

環の会では、縁組により迎えた子どもを、大切な子どもとして温かく育てることができるように、子どもを迎えた、その日から「テリング」により、声かけをしながら育てることを勧めています。

実際に、そのように育てられた「子ども」たちも、親になる時代になりました。
「刷り込まれた！」と本人たちは言っていますが、血が繋がっていないことを大前提にして、家族となっています。
まだまだ、人生を歩む途上にある「子ども」たち、そして親たちではありますが、そんな家族のようすについて、多くの方に知って頂きたいと思います。

＜子どもたちに必要な「真実告知」って、何でしょうか？＞
厚生労働省を始めとして、多くの機関が「真実告知をしましょう！」と推奨しています。

環の会では、「告知」という、一方通行で一時的な情報伝達ではなく、「あなたは、大切な大切な私たちの、待ちに待っていた子ども」「〇〇さん（産みの親）が守り抜いてくれた大切な命」「〇〇ママ（産みの親）が、あなたの幸せを願って、託してくれた子ども」ということを、日常生活の中で、伝え、更に、子ども自身の気持ちを聞きながら、誠実に応じていくことを「テリング」と呼んでいます。
「真実告知」を英訳した「telling」ではなく「tell+ing（進行形）」つまり日常生活の中で話し続けましょう、という意味合いで、「テリング」と呼んでいます。

「具体的にどうしたらいいか、わからない」という声が多く聞こえてくるため、「こんな感じにしてはいかがでしょうか？」ということで、先輩たちの取り組みをお示しします。

実際には、それぞれのご家庭で、それぞれの子ども、それぞれの親の、その時、その時の思い、ことばで、独自のテリングをなさることを期待しています。

そして、「これ、よかった！」とか「我が家で、ほっこりしたテリング」などあれば、環の会の事務局宛て、お知らせ下さい。
この冊子は続編に繋げていきたいと考えています。

それでは、初回の「テリングのヒント」をお届けします。

環の会 代表理事 星野 寛美

乳児期のテリングは、親が話す練習

テレビで出産シーンが放送された時、
「Ｓ君は、2ヶ月前に
Ｈママのお腹から産まれてきたんだよ。
覚えているかな。
Ｈママに元気に産んでもらってよかったね。
それから、ママとパパのお家に来てくれてありがとう」
と、3人でお話ししました。
目をじっと見て聞いてくれて本当にわかっている様子で、
「あー、うー」と笑顔を見せてくれました。
＜２か月男児＞

朝は
「N君、おはよう！　Ｔお母さんも起きたかなあ。
Ｔお母さんにも聞こえるように、
元気におはようって言おうかぁ」と声をかける。
夜寝る時にも
「Ｔお母さんもねんねしたかな…」なんて言って
ベッドへ。
「N、ねんねしようね。
Ｔお母さん、アンパンマン、メロンパンナちゃん、
みんな、おやすみなさい」というと、
ニターと笑いながら、クネクネクネ。
すぐにねんねしてしまいます。
私は心の中で
「Ｔお母さん、今日もNはとってもいい子でしたよ～！」
なんて言ったりしています。　＜１歳男児＞

テリングをする育て親の方のお気持ち

育て親の方は、どんな気持ちでテリングをするのでしょうか？

ひかるくん（仮名・生後1か月）を迎えた育て親からの手紙

産みのお母さんのことを、我が家ではひろみさん（仮名）と呼ぶことに決めた。親近感がわくし、本当に心から尊敬の念を感じている。
今日はひかるくんがいた保育所で撮った写真を、我が家のリビングに飾った。
写真の中のひろみさんは、しっかりひかるくんを抱っこして笑顔だ。なんだか嬉しくなった。本当によく似ている。
ひかるくんはまだ小さくてわからないと思うけど、いつかこの写真を見て、ひかるくんに「この人が産んでくれたのよ」と伝えてあげたい。
写真がいつも見えるところにあると、私たち夫婦もいつも感謝の気持ちと、ひかるくんに出逢えた今の気持ちを忘れないでいられると思う。

さきちゃん（仮名・生後6か月）を迎えた育て親からの手紙

今日、家庭裁判所の方の家庭訪問があり、担当の方が産みの親のユキエお母さん（産みの親・仮名）からの伝言を伝えてくれました。
4月に私たちが送った写真をとても喜んでくださっていること、写真の様子、手紙の内容を見て、育ての親である私たちに安心してくださっていること。
それを聞いて、涙が止まりませんでした。とてもとても嬉しかったです。思い出すだけで涙があふれます。ユキエお母さんがそう思ってくださるなんて、こんなに嬉しい事はありません。
私たちこそ、ユキエお母さんがさきちゃんを産んでくださって、本当に、本当に感謝の気持ちでいっぱいなのに・・・。
この思いを忘れず、さきちゃんを大切に大切に育てていきます。

子どもからの言葉に応じてのテリング

子どもが話せるようになると、子どもからさまざまな思いを発するようになります。

２歳２ヶ月で迎えた当時、
Ｙは自分のことを旧姓で呼んでいました。
そこで迎えた翌日、Ｙを膝に抱いて話しました。
「Ｙは、父さんと母さんと、
このお家で暮らすことになったんだよ。ずっと一緒だよ。
だからお名前が「Ｕ・Ｙ」になったんだよ」と。
するとどうでしょう。
それ以後、彼は一度も旧姓を口にすることはなかったのです。
この事実に私たちはたいへん驚きました。
そして、小さな子どもでも、
本当に大切なことはわかるのだと思えるようになりました。
これが我が家のテリングのスタートであったと思います。
＜11歳男児＞

２歳半になった頃、
５つ子ちゃんのニュースについて父親が話すのを聞いて、
「お母さん、Ｍには産んでくれたお母さんがもうひとり
いるんだよね」。Ｍから話したのはこの時が初めてです。
＜２歳女児＞

３歳の時、一緒に歩いていて、前から来る女の人を見て、
「あの人がＭを産んでくれたママなの？」
と聞いてきたのです。
この質問は、その後何回か続きました。
その度に
「ちがうよ。もっと遠くにいる人だよ」と答えましたが、
自分が私以外の人のお腹から生まれたことを
ちゃんとわかってくれていたんです。
＜５歳女児＞

３歳になる頃、
「僕には二人のお母さんがいるんやな。
　お母さんはお腹が壊れて
赤ちゃん産めなかったんやな？」
と口にすることがよくありました。
それは、幼いながらも
事実を一生懸命に受け止めようとしているのか、
それほどの思いもなく口にしているのか、
または、もっと別の気持ちからなのかは、わかりません。
でも私はその度に、
「そうやで。確かにお母さんはAを産んでないけど、
　Aのことを一番大好きと思っているのは
お母さんやで！」と、
ムギューっと抱きしめながら繰り返し答えました。
＜4歳男児＞

■３歳頃～

３歳を過ぎる頃から、
子どもから尋ねてくることが増えました。

３歳くらいまでは「ん…」と聞いていたけど、
年長ぐらいになると「会いたいな」とか、
「どこにいるの」とか…。

周りの（子育てしている）大人に、
「ねえ、おばちゃん、
　〇〇ちゃんは誰に産んでもらったの？」と
聞いて回っています。

「みんなママは二人しかいないからなあ～」って
急に大声で言ったんですよ。
えっ、何言ってるのって感じで、
「違うよ、みんなじゃないんだよ」って話しました。
＜４歳男児＞

自分にママが二人いるということは
理解しているようですが…。
＜５歳男児＞

（生みの母親に会った時、子どもが）
「ホントだったんだ！
産んでくれたお母さんがいるって言われてたけど、
お家にお母さんふたりいないし、
ウソだぁって思ってたけど、ホントだったんだ」と…
＜６歳女児＞

■小学校入学頃～

「なぜぼくはここにいるの？」
「どうしてここにつれてきたの？」
「なぜお父さんとお母さんのところなの？」
＜8歳男児＞

１年生になると質問にも変化がみられ、
「Mはどこで生まれたの？」
「産んでくれたお母さんに会いたい！」
「なぜMっていう名前なの？誰がつけてくれたの？」と
いろんなことを聞いてくるようになりました。
＜7歳女児＞

「どうして〇〇さんはNを育ててくれなかったの？」
と聞くので、
「本当は育てたかったんだよ」と答えました。
Nを大切に思うからこそ必死で産んでくれたこと、
でもひとりで育てるのはとてもたいへんだったこと、
悩みぬいて、命を守りたい一心で環の会を探し、
お母さんたちに託してくれたことを一生懸命話しました。
すると「産んでくれてありがとうって手紙を書きたい」
と言ってくれました。
＜７歳女児＞

突然「お父さん、お母さんのところに来てよかった。
みんな優しいから、産んでくれたお母さんが連れてきて
くれてよかった」と言って涙を流しました。
産んでくれたお母さんがいること、
家族になれたことをわかっているんだと、
すっごく愛しくなりました。＜６歳　男児＞

小学校に入学してから、友達に自ら
「私には二人お母さんがいてね…」と話し始めました。
自分自身に語りかけているようにも思えます。
＜６歳女児＞

「Nが養子で、産んでくれたお母さんがいるってことわかるよ。
それをAちゃんに言ったら『AはAのお母さんから生まれたん
だよ。でもNちゃんはお母さんがふたりいていいなあ』って
言ったんだよ」と話してくれました。　＜６歳女児＞

思春期の始まり

思春期に入ると、養子であることを前提に、親がドキッとするような言葉を、子どもが発することもあります。

子どもが大きくなってくると、
養子であることを盾にとることがあるんです。
「こんな家、来んかったらよかった！」とかね。
ホンマに、涙出ますよ。

＜10歳女児＞

家族で出かけた車の中で兄妹げんかが始まって、
「いいかげんに兄妹げんかはやめなさい」と言うと、
「産んでくれたお母さんが違うんだから
兄妹じゃない」ときました。
すかさず「育てた親は一緒だろ！」と答えて
何とかその場は収まりましたが･･･。
急な角度からの言い訳に、固まってしまいました。

＜10歳男児＞

時々テレビなどで、実は自分は養子だったとか、
生みの親との再会とかを目にすると、
自分の立場と重ねて、
自分の気持ちを話したり涙ぐんだりしています。
年齢的に自分の考えを持ち始めて、
難しい年頃になってきています。　＜11歳　男児＞

テリングしていれば順風満帆というわけでは
ないんですよね。
小さい頃から話していれば何の問題も起こらないと
つい錯覚してしまうけれど、
社会とのつながりの中で子どもは
「どういうことなんだ」と突きつけてくるんですよね。
それに対して、その子の状況、性格によって、
いろんな対応があるんですよね。　＜16歳男児＞

テリングに対する育て親の気持ち

テリングをする育て親は、どのような思いなのでしょうか？

「テリング」は必要なことであり、大切なことであると考えています。それは、子どもの人生を尊重しているからです。人生の素晴らしさ、誕生の素晴らしさ、生きるということの素晴らしさを知っていってほしいから、この世界に産んでくれたお母さんのことを伝え続けて行きたいと考えています。

それに、テリングをしたいのは、産みのお母さんが、是非話して聞かせたいお母さんだからです。赤ん坊がお腹の中で初めて動いたときにすごく嬉しかったこと、産めるとわかって嬉しかったこと、育てられないとわかっても、産院にいる間、ほとんど寝ないで育てたこと、名前だけは一生残るからと、一生懸命考えてつけたことなど、テリングし続けないともったいないと思っています。

「環の会が提唱している“テリング”に関する検討と提言」より抜粋

「テリング」はとても大切なこと！
真実を伝えることによって、成長していく上で、親と子のきずなになり、産みのお母さんへの感謝の気持ちへとつながると思います。
「私を産んでくれてありがとう」と言ってもらえるように伝えていきたいと考えます。

「環の会が提唱している“テリング”に関する検討と提言」より抜粋

テリングのある生活の中で育った子どもの思い

子どもは、どのように受け止めているのでしょうか？

Nちゃん　（縁組時生後１ヶ月、現在12歳　女児）

あまり記憶がないけど、
産んでくれたお母さんがいるってことは小さい頃から知ってたよ。
言われ続けていたし･･･

今は手紙を出したりもらったりしてる。
最近来た手紙に『Nと同じくらいの子に会うとNを思い出す』って書いてあって、ああ、うれしいなあって･･･

〇〇さんがいなかったらNはいないんだから･･･
また会いたいし、お話もしたいし、手紙も出したいし･･･
絶対、縁は切りたくない･･･やっぱり、家族です。

Nたち家族は･･･
血はつながってないけど、つながってる。
そういうことぐらいはわかるよ。
血はつながってないけど、絆はあるよ

今、20歳を越えた子どもたちの思い

テリングのある生活の中で育ち、20歳を越えた子どもたちは、どのように思っているのでしょうか？

（環の会第49回シンポジウム報告書より抜粋、一部改変）

＜テリングは、子どもの側から、どう見えている？＞

Sさん（23歳）：環の会の大きなテーマの一つに、皆さんご存知のように「テリング」というものがあるんですが、この「テリング」について、私は、事務局のMさんや他の方とお話をさせていただく中で思ったのは、子どもの側が思っているテリングと親御さんの側が思っているテリングというのは、どうも、とっても違うものらしいぞ、と。私にはよくわからないんですけれど、今ご覧頂いている親御さんたちは、「テリング」というものについて重〜く考えている……「テリングしなければならない！」という感じ、「納税の義務」くらいの認識のようですが、テリングをされている側の子どもは、というと、普段テリングされていてもそれがテリングであるってことはわかってない……それが「テリング」であるということを特別知らないままテリングされてるってことになる。わかります？

＜何歳までに、テリングを始めたらいいでしょうか？＞

Rさん（２１歳）：私は正直、どのようにテリングをされていたかっていうのは覚えてないです。物心ついた時には、産みの親と育ての親がいるよっていうことを知っていたので。小さい時から「刷り込み」と言いますか、ずっと聞かされていたんだろうな、っていうのは、今になって思います。

自分が大きくなってから知った、あるいはずっと言われてなくて自分が戸籍を見た時に知った、っていう場合には、誰を信用していいんだろう、ってなっちゃう、というのは思いましたね。

0さん（26歳）：僕は実際にそのテリングをされた時に「二十歳になったら言おうと思っていた」というふうに親から言われたんですね。やっぱり小さい頃から言ってもなかなか理解できないところがあると思うんですよ。それで、そういったところのボーダーラインとして親は二十歳で……っていうふうに決めたのかなと思うんですけど、やっぱりその「隠しきれない年齢だから」じゃないんじゃないか、と思うんですよね。言い方悪いですけど。二十歳ってことになると、親元を離れて暮らす場合に何かの手続きをする際、親の同意を得なくても、子どもが勝手にできるじゃないですか、戸籍謄本も手に入る年齢ですし。僕は小学６年生というタイミングでしたけど、やはり皆さんと一緒のように、最初から「刷り込み」ではないですけど、そういうテリングが重要なのではないかと思いまして……。やっぱりあの、当時の僕はショックでしたし、子どもにその、不安な思いをさせないように、というのはあったとは思うんですけど、正直僕としては、親のエゴじゃないですけど、傷つけたくないからっていうのは自分都合なのではないかなと思ってしまっていて、本当に子どものためを思うのなら早く言うべきだと思います。

やっぱり、僕はまだ小学生というタイミングだったので、まだ未熟で周りの状況もよくわかっていない、ある程度話ができるっていうレベルだったんですけど、これが、じゃあ思春期……中学生、高校生のタイミングでいきなり言われたら、たぶん、結構、僕はその何かしらこう、つまずいちゃうと思うんですよね。本当に、Sさんが先ほどおっしゃっていたように、ボーダーラインとしては小学生までだなと、本当、早いタイミングで言うべきだな、とそういう意見です。早ければ早いほど、遅くても思春期前までには、というふうに思っています。

Aさん（22歳）：私も同じで、思春期が来るまでには絶対に言った方がいいのかなと。思春期というよりも、生まれてもう、すぐ迎えた時から、絶対に言っていたほうが、いきなり言う親の立場からも、最初から言っていたほうが、なんだろう……悩みが少ない気がする。小学６年生でいきなり言うと、なんか、対応をどうしようみたいな、変わって来ちゃうかなと思うので、できれば本当に、最初からやっていった方がいいんじゃないかなと私は思う。

＜テリングを迷う育て親の方々へ伝えたいこと＞

0さん：育ての親御さんたちが思っているよりも、僕たち子どもは、その「養子」に対して何か壁を感じる、とかっていうのはたぶんないと思うんですよ。実際に自分の母親にも「ごめんなさい、ずっと言わなきゃ言わなきゃと思ってたけど、言えなかった。」と言われたんですけど、その、思い込み過ぎ、というか、うまく言葉でまとまらないですけど、そこまで別に悩む必要ないんじゃないかって。ただ単純に「あなたは、たまたま産みの親、育ての親と二人の両親がいるんだよ」ぐらいでいいと思うんですよ。余計に「あなたは血が繋がっていない」とか、そこまで言う必要はなくて、単純に伝えればいいんですよ。そうすれば、小っちゃくても理解できるし。

急に「実はその、あなたの産みの親じゃないんだよ。」みたいだと、びっくりしてしまう。僕は小６の微妙なタイミングで言われちゃったから、びっくりしたし、悲しかったし、怒ったし、とかありましたけど、だったら本当に最初から、その物心つく前から言っておけば、別に傷にはならないので。今、もしね、実際、テリングすることを躊躇している親御さんがいらっしゃるのであれば、「そこまで身構えなくていいよ」ということ、ちゃんと、きちんとね、子どもだけどわかるので……やっぱり伝えていこう、とそれが大事だと思います。

Rさん：0さんがおっしゃったように、子どもって大人が想像している以上に、受け止められる。大人が身構えてると、こっちまで身構えちゃうし、本当に軽くでいいと思いますし、悩んでる時間、どうやって伝えようか悩んでる時間があるのなら、さっさと言っちゃって、その分、子育ての違うことにエネルギーを使ってあげるのが良いのかなと思うし。ちょっと上手くまとまらないですけど、その何が言いたいかって言うと、子どもは、その、そんなに深刻に受け止めていない、子どもが小さければ小さいほど、受け止めてない、深刻には、ね。そう思うので、さっさとやってほしいなと思います。（笑）

Aさん：２人（Oさん、Rさん）と一緒で、なんか、そんなに子どもは深いところまでたぶん考えていない。だから、率直に、もう言っちゃった方が良いと思うし、なんか何だろう、そんなに考えなくても。（親に）迷いがあるっていうのを、たぶん小っちゃい子ほど、わかられちゃうから、表情にも出ちゃうと思うし、なんかそういうことをするなら普通に、言葉でちゃんと伝えてあげた方が良いんじゃないかなと思います。

Sさん：はい、ありがとうございます。恐らくですね、皆さんの言いたいことというのは同じことで、親御さんたちはですね、お子さんたちを、まあ、いろいろ心配して思ってあげている、それ故にですね、悩み考えてしまうような部分がたくさんあるのかと思うのですが、この「テリング」は、とても重要なものですので、必ずしていただかなくてはならないものである、というスタンスは変わりません。

そして子どもにとっては、皆さんが思っているほど、そんなに重いものではない、ということですよね。親が思い悩むことは大切なことだとは思うんですけれども、いつまでも深刻に考えてるものではない。特に子ども側からすると、全く思っていない、ということのようですね。なので、「早く言えば言うほど、それが日常になっていく」と、そう僕は思うし、シンポジスト（Oさん、Rさん、Aさん）の方々も同じような考えだということなので、もしですね、この中で、うまくいかない、うまくテリングできていない、っていう方がいらっしゃったとしても、そのお子様のこれからを第一に考えていただいて、早いうちからテリングをしていただければな、と思います。

環の会が提唱している『テリング』

<テリング>

子ども本人のルーツを知る権利を守るということは、育て親と子どもに信頼関係が育まれているからできることです。育て親は、産みの親の存在を、子どもを迎えたときから伝え続け、子どもの思いに耳を傾け続けることが大切です。

そのことを環の会では 「テリング（Telling ： Tell+ing）」と呼んでいます。「真実告知」を英訳して、テリングと称しているのではありません。

「テリング」は、ある時、ある瞬間をさすものではなく、育て親と子どもの信頼関係に基づくもので、生き方の姿勢そのものであり、連続的な関わりです。

子どもが乳児の時のテリングは、育て親の練習期間になります。その子のルーツである産みの親の存在をめぐる何気ない会話が日常的にできることにより、子どもは、父や母が産みの親を大切な存在であると考えていることを知ることができるでしょう。子どもは、産みの親の存在について育て親と話ができるし、育て親が産みの親のことをどう受け止めているかについて聞くことができます。

＜テリングで伝えたいこと＞

「テリング」を行うにあたっては、まず、「テリング」する側の人が、自分の心の中に、産みの親に対して、優しく、温かい気持ちを抱いているかを確認することが大切です。

命をかけて子どもの命を守った産みの親がいること。そのおかげで子どもは無事に生まれてくることができたこと。産みの親には事情があって、育てることができなかったこと。子どもは望まれて生まれ、望まれて家族になったこと。皆に愛されているからこそ、新しい両親と出会えたこと。子どもは、産みの親のおなかの中にいたことを知っています、その思いを大切にしようとすること。子どもを信じ、子どもの気持ちに耳を傾けること。

子どもも大人もお互いの存在を尊重すること…。

「テリング」はこういう方法が一番正しいという形はありません。どんな時、どんな場所、どんな人にもありのままでいましょう。そして何よりも、子どもの今日までのこと、現在の状態、そして未来のすべて、ありのままを大切なものとして受けいれ、愛し育むことです。

もし、あなたが迎えられた子どもだとしたら、両親にどう接してもらいたいでしょうか。

自分について何を知りたいでしょうか。自分に置き換えて考えてみるのも大切だと思います。

「テリング」は勇気のいることです。努力も相手への思いやりも必要です。人間同志の心が結びついたからこそ家族になることができます。

一方的に行うことではありません。子どもの年齢に応じて、工夫し、いつも、お互いの気持ちを大切にし、関わり、交流し続けることです。

「環の会が提唱している『テリング』に関する検討と提言」（環の会、2008）より一部改変

おわりに

テリングのイメージ、お分かりいただけたでしょうか？

子どもと共に過ごす時間が、豊かなものになるように、この冊子がいくらかでもお力になれれば、嬉しく思います。

お読みになってのご感想も、環の会事務局宛て、お寄せ下さい。

テリングってどんなもの？　　令和5年（2023）

令和5年3月25日　初版第1刷発行

発行者：認定特定非営利活動法人（NPO法人）

第2種社会福祉事業（東京都）

環の会（わのかい）

環の会事務局

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-23-13-502

TEL：03-3951-7270

http://www.wa-no-kai.jp/

E-mail：wa@wa-no-kai.jp

印刷所：三永印刷株式会社

＊本誌記載内容の無断転載を禁じます。

Motherly Network

Since 1991